

## ロシアにおける人口センサスの歴史と現代人口の動向

## The History of Population Census and Current Population Trends in Russia

トウルヒーエン ミハイル (Mikhail Trukhin) 指導：嵯峨座 晴夫教授

ロシアの人口学的な位相には出生率の低下(少子化問題)、死亡率の上昇、平均寿命の低下という問題が存在する。特に、少子化を伴った平均寿命の低下過程は、さらにロシア人口の急激な減少をもたらしている。また、現在と将来との最も重大な問題は、高い死亡率と低い平均寿命である。現在、男女別平均寿命の差は約14年に達するほどで非常に大きく、世界の中でも最も高いものの1つとなっている。また、ロシアの男性の平均寿命も非常に低い。

一方、経済・社会的不安定さや生活水準の低下の中で、将来に不安を抱くロシアの女性が増え、またそれゆえに出産を控えるようになってきている。それに加えて、最近、キャリアアップの可能性が広がり、自分を発揮したい、さらに経済的に独立したいという女性も増え、価値観が変化し(子供中心から個人中心への移行)、仕事と家事・育児との両立を望む女性が減少している。仕事を続けたいが育児との両立は困難だ、と考えているロシア女性は少なくないと思われる。そのような理由で結婚しない、あるいは子供を作らないカップルが多くなっていると考えられる。

つまり、ロシアは重大な人口学的な状況に直面しているのだ。ソ連崩壊以後、人口減少が顕著であった。そこで、本論文においては、近年と将来の人口減少過程について分析を行うことを目的とする。その過程はソ連崩壊後の13年間、および将来のロシアの人口に深刻な影響を与えている。また、本論文では、帝政ロシアから現代ロシアに至るまで人口センサス史についても検討する。

本論文では、高い墮胎率、置換水準に達していない低い出生率、性別間の差が著しい死亡率と出生時の平均余命といった最もアクチュアルな重大課題に、特に注目している。さらに、ロシア連邦における移動に関する現状分析がなされる。

ここでは、ロシアの人口が減少している状況を打開するために移動政策が効果的に行われるべきであると強調したい。このようなロシアの人口減少傾向は流入である程度補われる。それでも、実際、出生増加政策はこのような人口減少課題の包括的な解決のために重大な要因となる。さらに、このような政策の中では、最近徐々に減少しているものの依然として高い墮胎率と、始妊娠中絶の増加をくい止めるアプローチが重要な課題であると思われる。

つまり、ロシアの人口についてはまだ解明されていない部分が数多くあり、本研究はまったく新しいものである。日本におけるロシアの人口の研究は、個別領域に関しては優れた研究はあるものの、総合的・体系的に取り扱った研究は殆どない。本研究の意義は、ロシアの人口に関する日本で初めての総合的な研究であるということであろう。

本論文は研究方針に従い以下のような構成となっている。

第1章「本論文の目的と構成」で、本修士論文における視点と目的、概観を述べた序論であり、研究の目的と主要な課題の概略が述べられている。目的は、ロシア連邦の人口変動について分析を行うことであつた。

第2章では、ロシアの人口を明らかにするために、また人口センサスと人口動態統計の状況を解明するために「ソ連とロシアにおける人口センサスの歴史的な特徴」を考察した。そこでは、第1回1897年2月9日に帝政ロシアで初めて実施された全国センサスから2002年第9回の現代ロシアでのセンサスに至るまでの人口センサスの歴史および現状について検討した。

第3章「ロシアにおける人口変動:その要因と特徴」では、人口増加、出生率と出生行動、結婚と離婚率、人口移動について検討した。また、現在のロシアの人口減少を研究し、これまでと違って戦争や社会的混乱などによるものではなく、人口学的な過程が影響を与えていることを明らかにした。

第4章「ロシアの人口将来展望」では将来のロシアの人口について考察する。国連とロシアの国家統計委員会のデータを用い、その中の中位推計を使いロシア人口減少過程について検討した。

第5章「まとめ」ではこの研究の主な成果について述べた。

ロシアの人口学的な状況の問題はそれぞれ独立に検討することは出来るが、解決のためには課題の分析をばらばらに行うことは不適切である。つまり、ロシア人口変動を正しく把握するためには総合的な分析を行うことが重要である。